

患者の皆様へ

2023年3月20日

肝胆膵外科

現在、肝胆膵外科では、「肝胆膵領域術後門脈狭窄・閉塞に対する門脈ステント留置の有用性、安全性に関する研究」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では2003年1月から2023年3月までに当科で手術を受けられた患者様の診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名

肝胆膵領域術後門脈狭窄・閉塞に対する門脈ステント留置の有用性、安全性に関する研究

2. 研究の意義・目的

肝胆膵領域疾患に対する手術はその解剖学的特徴から複雑で、時に血管を切除しつなぎなおす（再建）を伴うこともあるなど、体に対する影響も大きいのが特徴です。また、この領域に発生する癌は悪性度が高く、ひとたび切除してもまた同様の場所に再発する（局所再発）することがあります。手術操作によるもの、癌の再発によるものと原因に違いはありますが、腸で吸収した栄養素を含む血液を肝臓に運ぶ血管：門脈が狭窄、あるいは閉塞することがあります。これによって小腸などの消化管からの出血、腹水の貯留、肝性脳症などの症状が出現しときに致命的になることがあります。このような状態の患者様に対し行われる治療のひとつに門脈ステント留置術があります。金属製のステントを狭くなった、あるいは閉塞した門脈内に入れることによって悪くなった血液の流れを改善させ、上記の症状が緩和させることができます。この研究により、どのような場合に、門脈狭窄・閉塞が起こりやすいのか、またどのタイミングでどのように門脈ステント留置を行うのが最適かを明らかにします。

3. 研究の方法

2003年1月から2023年3月までの間において、診療録に記載されている性別、年齢、身長、体重、病歴、血液検査値、診断、当科で行った術前、術後の検査、治療の結果、手術の方法、合併症、門脈狭窄・閉塞に対する治療経過、予後について調べます。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、氏名を削除し、特定の個人を容易に識別できないように

加工をして利用します。研究用の ID を付与し、ID と氏名を一致させるための対応表は、外部に漏れることの無いように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学教室の鍵のかかる保管庫で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をします。下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院肝胆膵外科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院肝胆膵外科

医師 大塚将之、酒井望

043 (222) 7171 内線 5286

文部科学省・厚生労働省・経済産業省による「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。